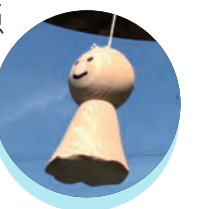
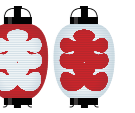


第一回掛塚寄席



イベント数日まえからの天気予報。「雨…降るのかな…(泣)」
そこで相棒の一言！「天気は大丈夫だに、わたし晴れ女だから！」(笑)

このイベント開催が決まってきたから私たちが、掛塚が人で賑わう様子を想像してワクワクしたり、たくさんの人に来てもらえるだろうか…と、不安になったり(笑)
とにかく「晴れ女」を信じ、イベントに来て下さった皆さんに喜んでいただけよう、スタッフみんなまで思いつく限り時間がある限り手を抜かず準備を進めました。私たちの担当は「掛塚寄席」。イベント前日、強風で「くりもの」の出店用テントが飛んだ…なんて事は気にせず、もうすぐ日付が変わるとい頃、寄席チームこだわりの「寄席看板」が仕上がりました。

そして迎えた当日は『晴天！』。おそろべし晴れ女！&スタッフの執念?!&くりものやのテニル坊主！(笑)

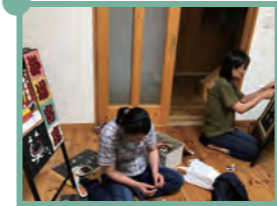
青空の下、各会場や「まち歩き」には地元からも外からも大勢の方がご参加くださいました。寄席会場の西光寺にも「イスの数足りるかな…」と心配になる程の方にお越しいただき本当にうれしかったです。

「いじやまいかけつか」「掛塚寄席」は倶楽部のメンバーだけでなく、とてもたくさんの方々にご協力いただき実現しました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

来年のイベントでは「くりものや」さんのように出店していただいたり、ご自慢の特技を披露していただいたり、いろんな形で地域の皆さんにご参加いただけたらと思います。

アンケートから

- 「もっともつと住民を巻き込んだまちづくりをしています。皆さんと創る次回のイベントを妄想して今からワクワクしています。」
- 「のりこ&さゆり」
- 「会場への案内が分らなかつた」善処します！
- 「身近な人の昔の話、面白いです。(機関紙)毎回のインタビューが楽しいんです。」
- 「貴重なものなので保存してほしい(津倉邸)」はい、地域で守っていきましょう！
- 「良い企画を継続してください」はい！継続は力なり…ですよね！
- 「寄席の花のプレゼントが嬉しかった」「掛塚寄席」を見たい思い出に！
- 「遠くまで行けないけど近くでプロの囃家の寄席が観れるなんて。」



深夜まで頑張りました！



参加者の感想

私の知っている限りでは、祇園とお祭り以外で掛塚にて行われるイベントは初めてだと思っています。
午前中は「掛塚まちめぐり」に参加。昔「遠州の小江戸」と言われた時代の水路跡を巡り歩く。正直、お祭り以外で御飯屋まで歩くことは滅多にありませんでしたが、説明を聞きながら歩いてみると、まだまだ知らない掛塚の歴史を再発見。掛塚に残る歴史遺産、大切にしていきたいと再認識しました。
砂町周辺では、旧掛塚郵便局や回船問屋津倉邸の中を見せていただき、くりものやさん、津倉邸庭園での売店や、掛塚まつりのビデオ上映、和太鼓「志多ら」の生演奏などで人が賑わってました。
午後は西光寺で「掛塚寄席」。三遊亭楽八さん、神田鯉風さんのお囃で満席の本堂は大きな笑いとなり、朝から晩まで魅力ある掛塚を満喫。私たちが歩いて出掛けられる範囲で楽しめたと共に、生れ育った掛塚をあらためて見つめ直すことが出来た一日となりました。
砂町 鈴木健吾



みんなと倶楽部



第9号

P1 掛塚が燃えた日
参加者の声

P2 掛塚まちあるき
イベントに飛び入り参加して

P3 津倉邸・庭園の公開
旧掛塚郵便局では蔵の写真展

P4 第一回掛塚寄席
参加者の声

掛塚が燃えた日

六月九日、「みんなと倶楽部」掛塚は、「いじやまいかけつか」を開催しました。これまでは磐田市が主催し、私たちはその展示や案内を手伝ってきた「津倉家公開」でしたが、三年目となる今回は、私たちの手ですべてを運営することになりました。

今年の二月、昨年の反省とこれからの計画を話し合いました。これまでは、掛塚まつりに合わせて一度の公開でしたが、もう少し回数を増やせないかと意見が出されました。しかし、公開だけでは人は来ないから、何か他のイベントと組み合わせる必要があると、かねてから掛塚に寄席を呼びたいと言っていた鶴田さんたちが「掛塚寄席」の実施を提案しました。さらに旧掛塚郵便局の所有者、長谷川さんからも、この機会に局舎の公開をしたいとの申し出があり、これで今回の大筋が決まりました。

名称については、アイデアマンの若者から「いじやまいかけつか」はどうかと提案がありました。「いじやまい」は、「いじやまい」を「いじやまい」というこの辺の方言で、それに「か」がつくと更に誘う気持ちが強まります。「掛塚」の「か」とだぶらせて、みんなが掛塚に、津倉邸に集まってきてくれることを呼びかけるネーミングです。

「掛塚寄席」の会場は、西光寺さんにお願ひし、旧郵便局でも、建築士会が「伊豆石の蔵」写真展を開いてくれ、また、当日の「まちあるき」には、「ふれあいガイドの会」が全面的に協力してくれることになり、参加者募集も観光協会にお願いすることができました。

津倉邸でどんなふうにもてなすか、様々なアイデアが出されました。生ビールに焼鳥などという案もありましたが、貴重な文化財である津倉邸では、アルコールはやめにして、火気も使用しないことで準備を進めました。昼食用の弁当やいなり寿司、子どもが喜ぶ駄菓子、何時も人気の「法多のだんご」などを売ることにし、元商工会職員の大澤さんを中心に、商工会女性部や小さい竜洋、糸ひす屋さんなどに協力をお願いしました。また、休憩したり、食事をしたりますイースは、木工の得意な松山さんが手作りしました。

当日は晴天に恵まれて多くの参加者があり、津倉邸だけで三百人ほどが入場、掛塚寄席には一四九人、まちあるきには四七人が参加しました。津倉邸を中心に、旧郵便局、西光寺が会場となり、砂町の通りには人波ができました。まちあるきでは、北



名倉慎一郎

当日実施したアンケートには、「もっと多くの人に知ってもらいたい」、「素晴らしい活動を、今後も続けていってほしい」などの意見が多数あり、多くの方々が掛塚を元気にしたいと強く思っていることが分かりました。この地域の繁栄の歴史を浮き彫りにすることが、地元の人たちの誇りにつながり、歴史や文化財を大切にしていこうという機運が高まっていくことを期待しています。

今後とも、私たちの活動に、ご理解とご支援ご協力をお願いいたします。

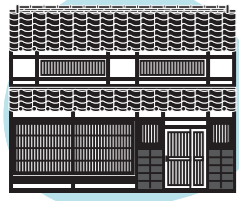


- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、佐藤喜好
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合、須田明広、長谷川智

お問い合わせ

ご興味のある方は
下記までご連絡ください！
☎0538-66-4775 (名倉)

●旧津倉邸公開



旧津倉邸の公開
当日は、竹内さんと二人で受付をしました。天気は非常によく、出だしも好評で見学者は約三百人、途切れることなく見学していただきました。

新聞の効果が絶大で、特に静岡新聞を見てくれた方が多かったようです。地元でも、「見学したいとは思っていたがなかなか機会がなく、思い切った今日来た」という人もいました。しかし、残念ながら子どもの姿は殆んど見られませんでした。忙しいのか、興味がないのか、今回の案内、企画に工夫が必要と感じました。

会長の池田さんや担当者がていねいに説明され、案内は非常に好評でした。見学者の中には、この見学会を知り合いにも伝えたいと、次回の日程を訪ねる方もありました。また、金谷から、掛塚の古記録を持って来てくれたグループもあり、掛塚とのかかわりが広がっていることを実感しました。

津倉邸ファン・掛塚ファンも、徐々に増えているように思われます。

吉野博行



竹内正通

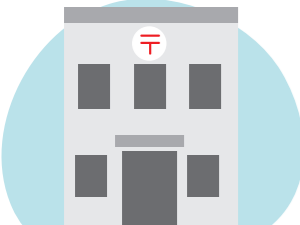
庭園開放を
試みて
心配された前日の雨もやみ、さわやかな初夏の一日となりました。

はじめての庭園での催しは、どうなることかとメンバー一同おおいに心配していました。笑顔をいっぱい無事に歩き終えることができました。

梅雨晴れの青空に恵まれた6月9日、「掛塚まぢめぐり」3コース一行は、ゴール地の旧廻船問屋・津倉家住宅へ。「まぢめぐり」は、私たちが期待していた通り、笑顔いっぱい無事に歩き終えることができました。

みなと倶楽部のメンバーが販売した「法多のだんご」は、あっとい間に予定の100個が売り切れ、急いで袋井まで追加の分を取りに行ってきた。雨どころか初夏の日差しが照り付け、「しおさい竜洋」のかき氷やソフトクリームが飛ぶように売れていました。竜洋商工会女性部のフランクフルトや焼きそば、冷茶なども人気で、駄菓子子の「えびす屋」さんも、子どもたちに人気がありました。

有志により「掛塚まつり」の映像が流され、祭り囃子の流れる中で、のどかな、そして貴重な一日を過ごすことができました。



●遠州伊豆石の蔵写真展



伊豆石の蔵

旧掛塚郵便局では、静岡県建築士会西部ブロックの協力で「遠州伊豆石の蔵写真展」を開いた。旧局舎や駐輪場には、建築士の調査をもとに作った大きなパネルが並び、写真と説明がたつぷり。地元の人や町歩きに参加した人ら大勢が詰めかけた。

午前10時から午後3時までの展示で、みなと倶楽部の3人と建築士会の8人が案内や説明にあたった。局舎には正面か南側の入り口から入り、倶楽部のメンバーが提供してくれたスリッパを用意した。伊豆石の蔵は遠州の人にとっては見慣れた光景だが、実は全国でも珍しいという。江戸から明治時代にかけて、木材などを掛塚から江戸に運んだ船が、帰りに船の動きを安定させる目的もあって伊豆石を積んできた。局舎は有形登録文化財だが、裏にも同じく文化財の伊豆石の蔵があり、訪れた人は写真を見てから本物の蔵を見学した。歴史や蔵に関心のある人も多く、建築士会メンバーがデザインや遠州各地の蔵について専門的な説明をしていた。

長谷川智

●掛塚まちあるき



笑顔いっぱいウォーキング

「いじやまいかけつか」の「掛塚まぢめぐり」は、1コースは南、2コースは北、真ん中付近を短く回る3コースの3班に分かれて募集しましたが、すべてのコースが定員いっぱい盛況となりました。

参加したのは、町外の人だけでなく、地元で暮らす人たちも。私が案内した2コースは、午前9時30分、貴船神社を後にして旧掛塚橋跡へ。普段は歩くことの少ない十郎島の裏道を抜けて八幡神社境内へ。そこから続く坂道の先は、かつて木造の旧掛塚橋が架けられていた場所。ここから見える掛塚橋は、現在では濃い緑色に塗装されていますが、ついこの間までは淡いピンクの橋として知られていました。「やっぱり掛塚橋には、ピンク色が似合ってたよね」とは「まぢめぐり」参加者の弁です。



香集寺に到着した私たちを迎えてくれたのは、袈裟姿で正装した住職と「幕末の三舟」の掛け軸でした。

「幕末の三舟」とは、幕末から明治時代初期にかけて活躍した幕臣、勝海舟、山岡鉄舟、高橋泥舟の3人のこと。床の間に飾られた3本の掛け軸は、左から泥舟、海舟、鉄舟の書。湊町として栄えた掛塚にピッタリとあつた3隻の「舟」です。

香集寺の次に寄った潜龍寺も、香集寺と同じ臨済宗方広寺派。決して広くはない掛塚に点在する7つの寺。十郎島の宝珠院や川袋の松林寺、白羽の龍泉寺も隣接した湊ゆかりのお寺ですから、その数の多さもかつての掛塚の繁栄ぶりを物語っています。

梅雨晴れの青空に恵まれた6月9日、「掛塚まぢめぐり」3コース一行は、ゴール地の旧廻船問屋・津倉家住宅へ。「まぢめぐり」は、私たちが期待していた通り、笑顔いっぱい無事に歩き終えることができました。

斉藤朋之

参加者の感想



横町 井熊光郎

雨が心配されていましたが、当日の朝は快晴！

運営スタッフの願いが通じたんですね。後で知ったけど、砂町のくりもの屋さん特製「くりものテルテル坊主」まであったんだから、晴れないはずないですね。

掛塚まぢめぐりは、貴船神社を出発して、所要所で名倉先生の案内を聞きながら蟹町の御飯屋へ向かって行きました。掛塚在住の自分も知らなかった事があり、興味深いまぢめぐりでした。日差しが強くて、電動カートで走る自分には過酷な環境で、両手が日焼けで真っ赤になってしまいました。参加して良かったです。

午後は、本町西光寺での掛塚寄席。地元のお寺の本堂で寄席を行うという発想が見事で、それを受け入れた西光寺さんもあっぱれですね。たいへん楽しめました。これからも、長く継続してほしいと思います。

楽しんで参加しました

飛び入り参加してみよう！

遠州掛塚くりものや 須田明広



「いじやまいかけつか」の開催が決まったと同時に、便乗(?)して、昔の作業場があった場所で「くりものや」の店を出すことを決めました。

当日は、開店前から「昔よく遊んだっけえ。懐かしいや」とコマを買いに来たくれた方や、「お前のおじいさ、ちよどこんすわに座って、木屑に埋もれるようにこさえてたでえ」と話してくれる方など、多くの方に立ち寄っていただいて、たくさんのお話しができたのが収穫でした。

家の前をたくさん歩いているのを見て、亡くなった伯父や祖父は「あれ？もう祭りけえ？」とビックリしたんじゃないでしょうか(笑)

次回は、こういうカタチでイベントに参加してくださる方が増えると楽しいと思います。

私たちのように手作りの品を売ってもいいですし、片付けで出た不要な物をフリーマーケットのように並べてもいいですし、代々伝わるお宝を展示するのもよいと思います。

「いじやまいかけつか」を作っていくのは町の皆さんですよ！